

精度保証施設に認証

江東微研の院内施設 信頼性高い検査データ

精度保証施設認証書を披露する増子科長補佐（右）と遠藤技師長



総合南東北病院で血液、尿などの検体検査を委託されている（株）江東微生物研究所（本社・東京都江戸

川区）の院内施設は4月1日付で、（一財）日本臨床衛生検査技師会と特定非常利活動法人日本臨床検査標準協議会から「精度保証施設」として認証され、4月18日（水）に認証書が届きました。

統一的な基準に基づく検査方法で正確に検査を実施、精度の高いデータを提供していることのお墨付きで、同施設の検査データが信頼性の高いことを裏付けています。

認証申請の受け付けは2年に1度で、今回、福島県内で認証を受けたのは同施

設を含めて3施設。院内の施設が認証されるのは稀で、総合南東北病院内施設としては初めて。認証書には「貴施設が提供する臨床検査値は標準化され且つ精度が保証されていることを証する」と記されています。認証期間は2020年3月31日まで。

同社は長年にわたり同病院内で生化学、血液、尿などの検体検査業務を受託しており、現在は臨床検査科の生化学検査室で18人のスタッフが働いています。

院内での業務に当たっている同研究所郡山支所臨床

じる可能性があり、特別のことではありません。様々なストレスだけではなく、身体の病気とその薬によっても脳の不調が引き起こされ、全人口の20〜30%の人々が精神科の病気（脳・こころの不調）になっているわけです。

精神科の病気にかかることは普通のことであり、恥ずかしいことでも、人間性に問題があるわけでもありません。身体の病気にかかると同じように考えていただければと思います。（総合南東北病院 精神神経センター長・渡邊義文）

こころと健康

4月より精神科医が常勤するようになり、当院で正式に精神科診療が立ち上げられました。

医学の長い歴史の中で精神科ほど誤解と偏見を受けてきた診療科はありませんでした。身体とは異なり「精神」という崇高と考えられているものが病むというこころとは、人間性を否定するかのよう受け取られ、特別な人しか精神科の病気になるまいと誤解し、多くの人が精神科を受診することをためらっていました。しか

精神科の病気は 誰にでも起こり得る

し最近、うつ病による自殺の多さ、発達障害、引きこもり・不登校や認知症など子供から老人まで多くの人々が精神科の治療を受けていることが注目され、精

す。脳の働きは複雑ですが、感情、思考・記憶、意欲、意識、覚醒・睡眠などの生体リズム、本能（食欲、性欲など）、自律神経の調整などがあげられます。

精神科のイメージも変化してきましたように思われます。

精神科で診る病気を簡単に説明すると、脳の働き、心の働きが不調となるものすべてということになります。

皆さんが「こころ」と考えているものは、実はこれら脳の高機能の総体ということになります。脳の不調は様々な原因によって引き起こされ、誰にでも生

検査部の増子建志科長補佐と病院臨床検査科の遠藤隆技師長は、「当院の検査データは極めて信頼性の高いという証。今後も精度の高いデータ提供に努めます」と話しています。

クールビズ

総合南東北病院を中心とする南東北グループは、環境省の地球温暖化・省エネ対策に呼応して、5月から9月まで全施設で「クールビズ」を実施しています。グループでのクールビズは8年目。期間中は原則として①職員の服装は軽装（ノーネクタイ、半袖シャツを認める）②各施設の冷房設定温度は28度程度を基本とします。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

6月医学健康講座

総合南東北病院の6月医学健康講座は6月8日（金）午後2時から同病院北棟1階NABEホールで開かれます。南東北医療クリニックの渡辺光弘歯科科長が「歯を失ったらどうやって治す？」と題して講演します。入場料は無料です。送迎バスは郡山駅午後1時発、南東北医療クリニック午後3時30分発をご利用ください。